

菊池短歌会

3月詠草

紅梅の極まる香り包み込み音なき域に子らをま
 ちをり 岩木 妙子
 病窓を昏めて吹雪くを告げてをり叔母にこの世の
 如月の雪 岩永 典子
 春あした鴨一群れの水尾ながく水辺を渡る風やさ
 しかり 梅田 昭子
 新聞を取らむと出でし六時半もの音一つ無きま
 さらの朝 梅野かをり
 桜草風に抗ふ一途さに語りかけたき弥生の夕べ
 黒田 衣子
 分厚なる花のカタログ届きたり頁に愉しむわが園
 芸は 佐々木かつえ
 この幾日見えてけふらふ枝の影花の身支度整ふら
 しも 竹野美智代
 足もとに小花を灯す「仏の座」信心篤き誰が名付
 けし 中原ちえ子
 馬頭琴モンゴルの風連れ来たり草原に響くうねり
 のことし 山内 直子
 梅に降る雨の明るさ淡紅の千の雫が光を散らす
 山下 菊代



万句の里俳句会

3月句会

青空に舞うてゆきたい花辛夷 はなごかし
 一斉に大地ゆるぎて草萌ゆる 稲田 鈴子
 つぎつぎと咲けり遺愛の肥後椿 梅田 昭子
 大陸の歴史の匂ひ黄砂ふる 光本とよいち
 芽柳の日毎やさしき色となり 小山 照子
 春めきて旅の誘ひを待つてをり 田中 美智
 山桜仰ぎ忌日の香を焚く 吉井 綾子
 淡き日を揺らしてをりし蚪蚪の紐 ひも 丸山美代子
 予定よりはみ出す野火を叩きをり 岩木 敬治
 雛納め手伝ひの子をもてあます 打出 貞
 古城址は今を盛りと山菜黄黄 野中 公枝
 初蝶の黄より狭庭の動き出す 隈部 輝子

肥後狂句桜会

例会入選句集より

ウォーキング 足腰鍛えよらす喜寿 小山 繁美
 一念発起 絶交さした飲み仲間 狩野 本六
 馬耳東風 わかつちちゆうて飲みおらす 高倉 新米
 泣こたる 借るしこ借つて夜逃げされ 須藤 新生
 一念発起 ついに奇跡のカムバック 太田 雄三
 ウォーキング 今日ほどがしこ瘦せたるか 光堀 善教
 泣こたる 水飲んだつちや太る質 北村 竹刀
 一念発起 嫁ご貰るたらガマ出さす 窪田 明德

泗水短歌会

3月詠草

パイキング お相撲さんなお断り 田中 孝幸
 泣こたる 連休明けのゴミの処理 藤由 藤紫
 一念発起 今じゃ立派な和尚さん 東 栄次
 泣こたる 乳飲み子置いて媽が出た 小佐井健坊
 涙なく遺影と話すは何時の日ぞ今朝は好物何供え
 ましよう 長尾はるみ
 如月の夫の命日三十一回僧の読経にしみじみと居
 り 中山 定子
 白梅の花片散りしく飛石を踏むを躊躇う朝戸出の
 時 平嶋きくえ
 暖冬に慣れしこの身に戻り寒啓蟄ならず炬燵に潜
 む 福原美智子
 花も咲き別れも多き春来たり遠足の子ら列長く行
 く 吉安 永子
 竹ぼうき百本を作り配り終え嬉しげに笑いし吾が
 夫なりし 内田つね代
 芝庭の真中に佇ちて両手揚げ五臓へ届けと太く息
 吸う 大島 ひと
 春窓の仄かな明かりに眼ざめれば何に驚く隣の犬
 よ 宮本 峯子
 裏庭のこぼれ種なる藪椿あふるる程に花のゆらめ
 く 高藤タツノ

せせらぎ俳句会

3月例会

千の風葉の花畑吹き渡り 寺本 和子
 お住持の愚痴も一ト言春彼岸 藤本 邦治
 アメリカの曾孫に送る雛霰 内村 泊虹
 くつろぎし宿の昼膳桜餅 藤本アツ子
 芍薬の赤き芽吹きをいたわりつ 内村 鈴子
 濃き闇に沈丁花の香の流れ来る 服部 静子
 ミモザ活けて古家ばつと明るしよ 坂本まつえ
 どこだろう近くでうぐいすが鳴いている (中一) 渡辺 大寿
 いぬふぐり皆太陽に向いている (中二) 渡辺 一史

七城短歌会

3月詠草

俺よりも先には逝くなの胸のうち言わざる愚かさ
 許せよ妻よ 岩崎 清継
 香の立てる味噌汁啜れば霜に耐えし青味の刻み口
 にやさしき 岩崎 照代
 眼底に異状来たるか西空に浮かぶ三日月二重に見
 ゆる 森 道子
 満開の名残のしだれ紅梅の花目白つつけばはらは
 らと落つ 岩津 涼子
 見も知らぬ母子が蹴り合ひ逸れしボール吹きつる
 春風遊び転がす 下川 つぎ
 安値続き放置の白菜畑一面こころ複雑消費者われ
 は 吉間 充子
 庭隈を占め花咲きし肥後椿落ちて地表なお紅く彩
 る 堀 甲子
 庭先の黄のパンジーに寄りてゆくじゃれ来る子犬
 の顔にもぞ似る 木下 陽子

旭志文芸俳句会

3月詠草

桃桜梢青みて春其所に 出田みどり
 白根出て花器より移す春の土 芹川 蓉子
 春雨に木肌つやめく並木道 芹川のり子
 春立つ日黄泉の旅路へ義姉送る 東 芳子
 曾孫は炬燵にだかれ笑わせる 郷 ミヤ子
 禪つぐ一年生や息白し 水谷 ミネ
 春寒しナースの声の高きにも 工藤 房子
 もこもこと土竜土盛る春の庭 中尾ヨシコ

肥後狂句水笑会

3月例会

むげえーこつ 休む間も無ア介護室 水 光
 どしこでん 読みもせん本積んである 英 坊
 よーしたもん へくそかずらも花が咲く 三代
 しゃんとせー 議員バツジの泣よるぞ 美 由
 どしこでん せびられるこつ銭持たぬ 五 女
 しゃんとせー お前次第で言われとる 三 水
 わかるみゃー 監視カメラも無かこたる 好 茶

